

デフリンピック2017 ～トルコ・サムスン～

JAPAN SPORT
COUNCIL

日本スポーツ振興センター

競技力向上事業

ダブルス3回戦

作成:山本広報

■平成29年7月23日(日)

7:00	朝食
8:00	選手村出発
8:45	試合会場入り
9:00～10:00	練習
10:00～11:30	梶下・親松試合
12:30～14:30	昼食、買い出し
15:00～16:00	練習
17:15	選手村到着
20:00	晩御飯
21:00～21:30	ミーティング
21:30～	解散、就寝

【男子シングルス3回戦結果】

梶下・親松 準決勝進出ならず。

梶下・親松 ● 4-6, 1-6 ○ Urs Ferdinand Breitenberger・Hans Todter(ドイツ):第2シード、前回デフリンピックダブルス金ペア



梶下・親松ペアの3回戦は前回デフリンピックダブルス金を獲得したドイツペアとの対戦。

長身から繰り出される高速サーブに苦しみ、リターンゲームはほとんど奪えず。

ドイツペアはサーブアンドボレーのスタイルで日本が甘いリターンを返すと一発のボレーで仕留められる場面が多く見られ、親松のサーブは通用するも、全体的に力負けし、4-6、1-6と残念ながら敗退した。

世界の壁は高く立ちはだかるが、今後の世界大会に向けて大きな経験となったと思う。

これで日本代表チームの試合はすべて終了しました。



試合終了後の写真

この梶下・親松ペアのダブルスの試合が Youtube (デフリンピック公式アカウント)にて公開されました。ぜひご覧ください。

ハイライト版 <https://www.youtube.com/watch?v=cSo42CXF-4o>
フルムービー版 <https://www.youtube.com/watch?v=2MEGdIs5yqo>



午後は親松選手がシングルス2回戦で対戦したオーストリアのマリオ選手の紹介で、第1シードの Mathe 選手と練習をさせていただきました。写真は親松選手と Mathe 選手のラリーの様子です。これまでシードの選手から練習相手として声をかけられることは殆どなく、今回の大会で日本選手の実力が認められた証拠だと思います。

齊藤監督コメント

メダル獲得に向けて目の前のベスト4に賭けて大一番の試合でした。相手はドイツ選手で2人も身長がありパワーがあります。高い打点からのパワーのあるサーブにブレイク成功したり親松選手のサーブゲーム取ったりして大健闘しましたが、身長之差と経験之差で無念の敗退となりました。ですが技術面は五分五分で、決して負けてはいませんでした。4年後のデフリンピックに向けた課題としては、やはり世界強豪チームと練習試合、合同合宿をやる限りやった方が良く感じました。これで全試合が終了しました。日本から熱いご声援を頂いたのにメダルを獲得出来ず残念でとても悔しい思いです。メダルを獲得出来なかった事、監督として本当に申し訳ない気持ちです。ただ、選手達は大健闘しました。今後に期待しています。日本から熱いご声援をいただき本当にありがとうございました

